Yamakado News Letter

山門水源の森を
次の世代に引き継ぐ会

湿原雪上に残るウサギとキツネの足跡 12月22日

新緑時のミヤマウメモドキ 5/11

降雪時のミヤマウメモドキ12/16

2年ぶりに まとまった積雪に

昨年度、一昨年度は雪がほとんど降りませんでした。柳ヶ瀬アメダスの記録によれば、2018年度の最深積雪は1月27日の19cm、2019年度は2月18日の10cmとなっています。しかし、今年の山門水源の森は12月14日の午後から雪が降り始め、17日は楽舎横の積雪計で64cmになりました。5日後の22日に守護岩まで登った西川会員によると95cmだったとのこと。守護岩では最大で１ｍを越す積雪深があったと思われます。

気象予報では30日から元旦にかけて「最強寒波襲来」との見出しを出て注意喚起をしています。今季はどの程度の積雪になるでしょうか。

積雪地域の 樹木のしなやかさ

山門水源の森では、ミヤマウメモドキ、エゾユズリハなど多雪地帯の植物と言われる植物がいくつか生育しています。これらの特徴は幹を太くして上へ高く伸びようとするのではなく、細いけれどしなやかな幹を幾つも生やす選択をしていることです。いや、そうした特徴を持ったものが生き残ったと言う方が正しいでしょう。雪が積もると、その特徴がよく活かされた姿を観察できます。折れずに地面につく程しなやかに曲がったまま、雪解けを待ち続けています。

その視点で他の木も見てみると、常緑樹のソヨゴやアカガシも、そうした幹のしなやかさを持っているようです。これらは暖かい地域の植物と言われていますが、多雪地域まで北上してきた結果、こうしたしなやかさを身に付けたのでしょうか。

一方で、針葉樹のヒノキは円錐状の綺麗な樹形ですが、こちらは雪の重さに耐えられずに倒れてしまう木があります。花崗岩の薄い表土でしっかり根が張れないのか、着雪のばらつきによって重心がズレるのか。しなやかさはないので、まっすぐな姿のまま倒れています。

折れずにしなるアカガシ 12/23

折れずにしなるソヨゴ 12/27

倒れたヒノキ 12/22

今年最後の保全作業

12月5日、今年最後の保全作業を行いました。13名が参加し、防獣ネットはずしや階段資材の運搬、湿原ネット内の刈り払ったササの整理などを行いました。刈り払ったササの整理は途中までしかできていませんが、雪が積もってしまったので、雪解け以降に残りを行う予定です。

刈り払ったササを拾い集めて一カ所に集積　12/5(第一土曜日の保全作業)

2000年代に行った湿原内のササ刈りや除伐で、トキソウやクサレダマなどの湿地の植物が再生しました。その後、ネット保護区内で再びササの生育範囲が拡大し、湿地の植物の生育状況が悪化しています。今回ササを刈り払ったことで、湿地の植物の生育環境が改善するのか観察していきます。

天然更新試験地の様子 12/17

天然更新試験地AFネット降し 12/17

防獣ネット降し

12月14日から降り出した雪は湿原で50cm程度まで積もりましたが、その後は降雪がなく減少しています。この状態でネットを降すと、獣害を受ける可能性もあります。しかし、雪質が湿雪で重く、ネットに大きな負荷が掛かっていて、ここまでは破損する可能性があります。また予報では年末にかけて大雪になるとのことだったので、そのまま根雪になると判断し、湿原のネットを降すことにしました。

中央湿原AFネット降し 12/23

北部湿原ネット降し 12/24
Photo 藤本H

一方でネット下部のイノシシ避けのトタンは、人手不足で降雪までに撤収できませんでした。このままでは、雪の重さでトタンが破損する可能性があり、来春はメンテナンスに人手を要するかもしれません。しかし、2018、19年に流行したCSF（通称豚コレラ）による影響か、センサーカメラにイノシシが映る回数が激減しています。それはそれとして気になる問題ですが、しばらくはイノシシによる獣害は少ないのではと考えています。

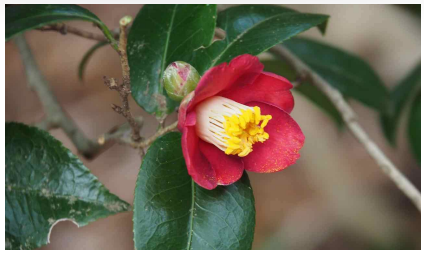
除雪機を購入

今年度から支援頂いている湖北工業(株)の資金を活用し、除雪機を購入しました。県道から楽舎までの約150mは、今までも浅井会長の除雪機で出張除雪してもらっていましたが、常備されたことでより速やかに除雪できるようになりました。重い荷物や灯油などを運ぶ際、車で楽舎近くまで寄り付けるので、大変助かっています。

進入路を除雪機で除雪 12/26

理事会 オンラインで参加する理事
12/19　Photo 藤本H

降雪前に開花したキタヤマオウレン
12/11


降雪前に開花したユキバタツバキ
12/10